

第3回 田沢湖地域審議会会議録

日 時 平成21年1月27日（火）午後1時30分～
場 所 田沢湖庁舎第1会議室

出席委員

梁田	良雄	高橋	正男	佐藤	和志	千葉	なみ子
井上	幸子	石井	和子	今	郁子	倉橋	重基
真崎	久仁子	高橋	吉幸				

欠席委員

藤村	正喜	千葉	正登	高橋	正治	齋藤	英明
----	----	----	----	----	----	----	----

参 与

田沢湖地域センター長	田口威徳	企画政策課長	高橋新子
総合窓口課長	田口 正明	福祉施設民営化推進室長	藤村 好正
企画政策課主査	阿部 聡	企画政策課主任	若松 正輝
総合窓口課課長補佐	佐藤祥子		

会議次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 事
(1) 田沢湖地域の個別課題の抽出について
- 4 閉 会

総合窓口課課長

本日はご多忙のところご出席いただきありがとうございます。
ただいまより、第3回田沢湖地域審議会を開会します。
始めに会長よりあいさつをお願いします。

(午後1時30分開会)

梁田良雄会長

大雪の後の除雪作業等でご多忙中お集まりいただきましてありがとうございます。
今年度最後の会議となりますので、今日でまとめることができるよう
にがんばっていききたいと思います。

総合窓口課長

それでは会議次第によりまして議事を進めたいと思います。議事の進

行につきましては、地域審議会の設置に関する協議第7条の規定に基づきまして会長のほうからお願いいたします。

議長

さっそく議事に入ります。始めに前回説明を求められました「高齢者施設の対策」と「生活バス路線の状況」について福祉施設民営化推進室長と企画政策課主任よりそれぞれ説明願います。

福祉施設民営化推進室長

福祉事務所の中にあります福祉施設民営化推進室の藤村といいます。どうぞよろしくお願いします。現在田沢湖清眺苑の民営化ということで作業を進めております。皆様ご承知かと思えますけれども田沢湖清眺苑につきましては今年の4月から社会福祉法人県南福社会というところに経営を委譲することになっております。この県南福社会というのは、現在の大仙市で昭和47年から特別養護老人ホーム「欣寿園」というものをやっておりました。その後平成12年には現在の西木町に「清流苑」という特別養護老人ホームをやっております。それから、角館の「さくらさくら」というデイサービスの施設をやっております。大曲のほうでサン・サルビアという特別養護老人ホームも経営しています。平成16年には欣寿園という特別養護老人ホームを改築しまして「こもれびの杜」という特別養護老人ホームを経営しております。ここは県内では初めてのユニットケアといいますか個室型の特別養護老人ホームをやっています。先週委譲の関係の打ち合わせでそちらの施設を訪問しましたがけれども広々とした施設の中で入所されている方も快適な住環境を提供していただいているなという感じで見てまいりました。田沢湖清眺苑の委譲に関してなんですが、基本的に今の施設を使いまして現在入所されている方を引継いで特別養護老人ホームを経営していくという条件のもとにやっております。職員につきましては臨時の方現在10名おりますが、全て県南福社会の職員として採用してもらおうという形をとっております。そして、現在の正職員につきましては異動という形で清眺苑には残らないということで進めております。足りない職員（現在の正職員分）については県南福社会の他の施設で働いている方が来て介護サービスを提供するということで、介護員については9名新しく来るということで19名のスタッフでやるというふうに聞いております。今年の1月6日から既に1名来ておりまして、引継ぎの準備をしております。介護にあたる方々は2月と3月の2回に分けて現在の清眺苑のスタッフと一緒に実際の介護の方法等引継ぐという予定になっております。4月からは県南福社会のほうに全て経営を移譲するというような形で行っております。

それから、その他に仙北市では現在養護老人ホームの角館寿楽荘、特別養護老人ホームの角館桜苑、介護老人保健施設のにしき園という三つの高齢者福祉施設がありますけれども、これにつきましてもこの後平成24年までの民営化というような基本方針がございますのでそれにしたがって進めていきたいというふうに考えております。

それから、田沢湖清眺苑の委譲先が県南福祉会に決まりましたけれどもこれに至る経緯といたしまして昨年の8月、9月に旧大曲仙北、現在の仙北市、大仙市、美郷町にあります社会福祉法人を対象にして清眺苑の委譲先の公募を行いました。その結果、14の社会福祉法人がございますけれどもその中から、先ほどから言っております県南福祉会、ウォームハートといいまして旧西仙北刈和野で特別養護老人ホームをやっております社会福祉法人、こまくさ苑の三つの法人から応募がありました。これについて民間の方々と市民福祉部長の7名で選定委員会というものを設置しましてその中で最もふさわしい法人を選定するという作業をしております。9月26日に締め切りまして10月の下旬にそれぞれの法人からプレゼンテーションを受けましてそれを基に11月に選定をしたという経緯になっております。最終的な市としての判断については議会の議決が必要になりますのでこれにつきましては昨年の12月議会に提案、可決いただきまして現在に至っているという状況でございます。この後、明日ですけれども委譲先の県南福祉会、それから私たちというメンバーで入所者の家族に対する説明会をここでやる予定になっております。入所者の家族につきましては応募開始する前にも、昨年の7月27日と29日に民営化するということでこういう作業が始まりますということで説明会を開いております。以上で説明終わります。

議長

これにつきまして質問のある方。特にこの説明を求めた方これでよろしいでしょうか。

(なしという声あり)

議長

次に生活バス路線について説明をお願いします。

企画政策課主任

企画政策課の若松と申します。生活バス路線の現況につきまして説明します。皆さん日頃からお気づきになられていらっしゃると思いますが、バスの利用者が近年非常に減少してきているという状況にあります。かつて羽後交通線でいいますと昭和44年が利用者のピークということで秋田県全体の利用者は1億人ほどいらっしゃるものが現在はそれから

比べますと14パーセントに止まっているというふうにかなり利用者が減ってきております。そのことは路線バスを維持していくことが極めて事業者にとって厳しい経営環境になっているところでございます。田沢湖地区のバス事業につきましては、羽後交通線と田沢湖の向生保内地区では市営のバスが1路線走っております。羽後交通なんですが、地域的にこちらは観光路線が多くて八幡平、玉川、乳頭そうした黒字路線もありますが、市全体では鎧畑ですとか岡崎院内線ですとか採算割れしているという所も多数あります。今、市内で12の系統について補助金を投入して運行を維持していただいております。その総額は今年は約4000万円ほどです。市民バスですが、こちらではたっちゃんバスで親しまれていますし、角館に行きますとスマイルバスというのが2路線あります。これはもともといずれも羽後交通線が走っていたところがもう続けていけないということで当時の町が引き受けて代替的に走らせているという事業でございます。羽後交通線に廃止前に補助金を交付していたよりも市としては非常に財政負担が大きい路線となっております。今、市の生活交通に関する課題としましては、22年の4月から秋田県のバス補助制度が大きく見直される予定になっております。それによれば県からの補助基準が厳しくなりまして、羽後交通線で言えば12の内、県の補助金で残るのは2路線。つまりは10系統は県の補助金がなくなってしまうことになります。そうなりますと羽後交通さんにとっては収入に穴が開く状況です。それで即廃止ということではなくてやがて市のほうに負担をお願いできないかという話で来る可能性があるかなと感じているところであります。今のバス事業を取り巻く状況としては説明申し上げたとおりです。こうした中で当面のバス事業として、21年度部分的にダイヤが見直される所があるので、まだ決定ではありませんが、おそらくそうなる雰囲気ということでご紹介したいと思います。岡崎院内線ですが日曜日、祝日については運休させていただきたいという話でございました。鎧畑線は最終の1便17時頃こちらを出発し、戻りは回送してくるんですがほとんど乗る人がいない。いても一人という話でしたのでそこは削減させていただくということでございました。それから角館と田沢湖間を結ぶ生保内線も非常に厳しいので1便削減させて欲しいという話があったところです。市営のたっちゃんバスについては21年度はこのまま続けていきたいと考えているところでございます。市として、今後、今のまま維持していくのは大変厳しいということですので昨年の秋に国からの補助金をいただく関係でお隣の北秋田市と共同の「秋田内陸地域公共交通連携協議会」というものを設置しました。その

中で地域の将来に安定的に住民の足が確保される公共交通の在り方を探っていこうということで協議会を開いてきているところでございます。住民の方々の足を確保し、また、観光客にとっても使いやすい、また、事業者にとっても持続できる、市にとってもできれば財政負担を抑えつついける在り方というものを、非常に難しい大きな課題ではありますけれども、それに向けて取り組んでいきたいと思っています。

議長

何か質問ありませんか。

高橋正男委員

県の補助制度が大幅に変わるというのは何年度からですか。

企画政策課主任

平成２２年４月からです。

高橋正男委員

１２系統のうち１０系統が該当ならないということですが、これにより市民に非常に大きな影響があると思います。これについては市として事前にいろいろ検討されていますか。

企画政策課主任

羽後交通さんの方でもできるだけ残していきたい。補助基準今のままだとそういうことですが、系統の再編、短い区間を統合することによって何とか基準をクリアできるように再編を検討しているようです。今のところそれによって全くなくなるという話ではない。

高橋正男委員

市として何らかの方策、市民バスとして受ける等、これから検討していくということですか。

企画政策課主任

平成１８年に角館の白岩という所で羽後交通線が廃止された後、代替方法を地域の皆様と考えた結果、乗る人数的にもわりと少ないようでしたので、タクシーの力をお借りしまして、予約制の乗り合いタクシーということでやっております。市としても今モデル的な位置づけでやっているわけですが、これが軌道に乗りますとこういったことを他の地域に展開することも方向としてはあるのではないかと考えております。期待しているところです。

議長

他に質問ありませんか。

（なし、という声あり。）

議長

次に前回課題にしました一人一案ということでさっそく高橋吉幸さんから順序をお願いします。

高橋吉幸委員

前回お願いした認定農業者数あるいは直売所数等について資料をいただきましてありがとうございました。地産地消と観光の関係、魅力ある農業の関係になるわけですがけれども、その中にスローフードなりあるわけですがけれども、観光施設とどういう形でかかわっていくかというようなことが大変大切なことだと思います。なんといっても観光地といいながら産業の中心は農業だと思ってますので、今回ここでひとつの項目として取り上げていただければと思ったところです。

眞崎委員

農業と観光を結びつけるというのが課題だと思います。それが今までどうしてできなかったのか。できなかった理由を考えていけば、その問題点を出して結び付けていけるようにやったほうがいいと思います。

倉橋委員

自分でも米や農産物を販売しています。しかし、このホテル等は安い米でないと駄目だという感じです。何とかして自分たちの米を販売したいなと思いますが、入札制度あるいは大量に安く販売できる所しか、なかなか使っていただけないというのが現状であります。何とかして販売したいなと思ひましてスキー場等にも販売しました。行政にもうちょっと支援をしていただきたいと思います。特に使っていただくホテル等にもうちょっと支援していただければ地元の農産物ももっともっと使っていただけるのではないかと思います。

今委員

田沢湖地区はどういう地域かということをもっと原点に帰って考えてみた場合、面積の7、8割は山林であるということと湖と温泉という観光資源この二つは皆さん誰もがわかりきっている重要な基盤になるものだと思います。その点から観光について考えてみましたけれども、私の希望的なものを言わせてもらってもっと散策をして楽しめる観光地になるといいなと思いました。例えば国道341号の山居のあたりから造道の交差点へ向かう川沿いの景色はすごくいいところだと思うのであの辺と小先達の交差点から田沢湖畔、それと反対の水沢地区、もしくは高原へ向かう景観をもう少し整備をして散策道になるようにできないかということを考えました。点在している観光ポイントを駅からずっと繋ぐ事によってひとつの流れができるのではないかなと思います。自然な人の流れができることによってお店でも何か新しいものができていくかと

思うのでそういうことから商業関係へも良い波及効果があるのではないかなと思いました。

井上委員

第2章全ての生命を慈しむ健康福祉の町という大きな課題がありまして、その項目の下に地域医療、救急医療体制の整備についてを取り上げてみました。これは現在全国に共通な課題でもありますけれども個人的な私事で恐縮ですけれども市立角館総合病院に通院していますけれども毎度毎度医師が変わりまして月曜日は従来の医師が担当したとすると、火、水は空欄で、木、金は昭和大学とか、そういうサイクルになっています。地元の病院も診療所という感じになっておりますけれども、どうかして我々が健康維持していくために安心して命を任せられるという受け皿が欲しいものだと思います。一概に言いましてあまりにも大きな課題ですけれども個人として痛切に感じまして、この案を取り上げてみました。

高橋正男委員

私も地域の課題として一番今取り上げるべき事項。難しいけれども地域医療と救急医療体制の確立が一番でないかなと思っております。平成18年に田沢湖病院の救急医療がなくなってその後今ご承知のような格好で田沢湖病院の診療所化等々についていろいろ議論されています。あのような立派な施設ができておるわけですがけれどもあの施設を整備した際にこれからは高齢化社会を迎えてどうしても一番安心して暮らせる医療体制が必要でないかと。それに併せて、医療、福祉、保健というような連携の基にああいう施設を作ったわけですが、現時点では非常に医療体制の状況が厳しい。医師もなかなか見つからないという状況になっておりますけれども市民の願いというのは医療の確保ということでないかと感じています。ご承知のように田沢湖地域においては、角館あるいは大曲、岩手へいく場合かなり遠距離ですのでそういう面からも近いところに救急体制が必要でないか。それから、当地域は観光が大きな目玉になっておりまして観光というものは医療との関わりが非常に深いと思います。いろんな大会誘致等についても救急体制が整っていなければなかなか誘致できないというもろもろの状況もありますので、第一番目に地域医療、救急医療体制の整備について皆さんとともに意見を交わしながらより良い方向にできればということで取り上げた次第です。

佐藤和志委員

観光という立場で言いますと山と湖と温泉ということでいろいろあるわけですがけれども今田沢湖地域で一番弱いのは以前のように田沢湖にあ

まり人が来なくなったということだと思います。実際田沢湖に来られた時に雨が降った時に行く場所が無い。お金を払えば食堂とかありますが、雨が降っても公共の施設で時間をつぶせる、なおかつ、ただ見るだけでなく地域の歴史とか知識を吸収したいという思いが今の高齢者の方にありますので田沢湖で何か目玉になる施設がひとつないとお客さんに来てもらうときにインパクトが弱いのかなと。幸い史料館というのがありますがせっかく管理人の方がおりますのに見てもらうことができないという施設ですので、これをもう一度リニューアルして、場所の問題があるかと思いますが、かつて観光協会で“ウオンテッド国鱒”、ということですのでいい評価を受けたことがありますのでもう一度田沢湖で地域おこしをしないと仙北市田沢湖というものからいくとなかなか難しいのかなと。大きい施設でなくていいので、ぜひ湖畔に、田沢湖に国鱒がいたという物語をきちんと地域で再評価してそれにお客さんがいろんな興味を持って来てもらうというような国鱒資料館というものをぜひ整備していただきたいと思います。

観光、イベント、スキー大会とかいろいろなものがありまして、どうしても医療というのは欠かすことができないわけですが、スキー場でここ2年全日本のマウンテンバイクという大会やっていますけれどもこの大会は日本で最高峰、1年に1回という大会で、ポイント制になっていますのでレギュラー選手は必ず出るという大会になっています。参加選手全員ドーピング検査をやっており、これに100万円近いお金をかけて大会をやっています。そういう大きい大会に来てもらうにはそういう対応ができるかどうかというのが問われてきます。そういう部分で地域に病院がないとこれから大会とか誘致するときにいろんな問題が出てくるのかなと思っています。マウンテンバイクもワールドカップがありますが今年オーストラリアでありますけれども、全日本の本部からは、もし、田沢湖でやるということであれば申請しますよということを伺っています。海外から大会を持ってくるということを考えても田沢湖にぜひきちんとした医療体制を残してもらいたいと思います。

千葉委員

観光事業と他産業ということで、田沢地域としてぜひ皆さんに知っておいてもらいたいということがあるので話します。平成の大合併により仙北市となってますます過疎化地域になりました。そして、田沢は高齢者だけが生活している地域となりつつあります。農業や林業も細々と続けている現状であと何年できるかという話をよく耳にします。大変寂しく悲しく感じています。そんなこの地域を活性化する取組として夫と話

していることを話させていただきます。ひとつは田沢地域にある茶立ての清水をいかした「水の駅」の構想です。具体的にまとまってはいないですがNPOたざわ村で検討しているそうです。ふたつめは旧田沢中学校を活用して地球温暖化防止になるバイオ燃料等の開発研究所を誘致することができないでしょうかということです。原料となる間伐材は豊富にあります。そして、減反を利用した原料作物の作付けも考えられます。原材料をストックするにはグラウンドも利用できると思います。一期の審議会の答申として社会教育とか福祉施設とか産業振興施設とか資料に載っておりまして。地域住民の福祉向上のことも前に考えておりました。グループホーム等の民間資金を呼び込むため広くピーアール活動が必要という意見も記されてありました。中学校のそばを通るたびに学校が朽ちていくのがすごく悲しいです。どうか市にわかってもらいたいと思います。

石井委員

盆踊りに何年か参加したんですが、年々規模が小さくなって盛大さがだんだん無くなってきたような気がします。前は各企業が参加して団体賞とか個人賞とか設けていたみたいで、そういうものを復活させてもらったらいいと思います。ただ参加して下さいというだけでは皆さん家から出てこない。よさこい節等に来ていただいてコラボレーションしてもらってまず話題性を作ってもらって、とにかく家の中から人が出てくるような状態を作っていただければもうちょっと活気がでると思います。それから、開催日もいつも遅いので帰省している方がいる間にそういうものを企画していただいて、中仙のドンパン節とか西音内盆踊り等に近づけるようにがんばってもらいたいと思います。

議長

それぞれ素晴らしい提案をいただきまして、全部重要ですね。でも、この会として掘り下げるために今日とりあえずひとつにまとめたい。その他の事で大切なことは役場に働きかけていくのが一番いいんじゃないかと思います。農業と観光という問題と医療についてと。

センター長

ただいまの石井さんの提案は会長が実行委員会のほうにこういう意見もあったのでということで話す手法もあると思います。

高橋正男委員

一課題に絞るべきですか。二つとか三つの課題を審議するということとはできないのか。

総合窓口課長

必ず一つでなければならないということではないです。委員の皆さんが二つなり三つについて検討していこうという事であれば結構です。

議長

全部必要で素晴らしいのですが、田沢湖で取れた野菜等を全部地元のホテル旅館等に出すということはそれだけで出所がしっかりしているということで観光の目玉になると思います。グリーンツーリズムで小学校、高校を入れて年間30校位来ますが旅行業者がそこに救急医療機関がないと結局はじかれます。そういう面でも救急医療の有無は大きな問題なんです。

そうすれば三つで進めていいですか。生保内節については私が実行委員会に地域審議会としての要望として出しますのでそういうことで了承してください。

佐藤委員

生保内節の件ですが、教育委員会でやっていたんですが、5年前観光協会でやれという話がありました。ところが、盆踊りを残すという基本的な考え方とそれを利用して観光客に来ていただくという考え方と二つあるわけです。そして、観光客を呼び込むということはいろいろ仕掛けとかあるわけです。その部分をお互いにしっかり認識してすり合わせる必要があると思います。

石井委員

私はとにかく各家庭から人に出てもらってそれを見てもらうということが一番の基本だと思います。家から人が出ると駅前の商店街も賑わうかなと。帰省客のいる間に実行してもらえればいいと思ったわけです。とにかく盆踊りだ行こうというような環境を作ってもらいたい。

センター長

自分たちがやって自分たちが楽しむということですね。

石井委員

田沢湖地区みんなが楽しければ良い。楽しむようなことをやってもらいたい。8月になれば盆踊りがあるから踊り手も見er人も皆が出てこれるような環境を作って欲しい。

佐藤委員

やはりやるのであれば帰省客のいるピークにぶつけるべきだという話を再三したんですが、基本的に盆踊りを残すということを考えるとそこまでしなくてもという話だったんです。その辺をきちっとお話をすべきだと思うんです。

高橋正男委員

伝統を残していくというのが主体になっているのではないかと思います。公民館の職員、民謡協会の方々が中心になってやっているようです。市民の方々に呼びかけて各家から出てもらうという大仕掛けにはなかなかないでいるような状況だと思います。もうちょっと活性化するためには実行委員会の充実を図るよう呼びかけていかなければならないと思いますのでそういうことも含めながら検討してもらいたいと思います。

議長

最初に農業と観光について。

高橋吉幸委員

そうすれば3項目に絞って話を進めていくという方向でいいですね。できればひとつにすれば深く入ることになると思うけれども。

農業の指導者であるJAの果たす役割は大きいと思います。市と手を取り合って進めていくという事が大変大切なことでないかと思います。農業を営む人達の意欲ある人達が認定農業者になっているわけですが、なんとしたって米を中心とした認定農業者だと思います。今直売所を支えているのはこの地域に住んでいるご婦人達の大きい力があると思います。地産地消という形で行くとすればやはり中心となる人を育てていくことが大変大切なことだと思うわけです。それでは誰がどのようにしてやるかということになれば出てこないわけですが、田沢湖地区にある特徴ある野菜や米、作ったものを地域のホテル等で全部使ってもらえるような仕組みづくり、これは長い間かかってもなかなかできなかったと言われてはいますが、この後どういう形で進めていくのが一番いいのかということについて話していかなければならないと思います。

高橋正男委員

農業と観光ということですが、もうちょっと幅を広げて林業も関係あると思いますので、農業と限定しないで「観光と他産業」という言葉で議論したらいかがでしょうか。

倉橋委員

私も森林組合の作業班でお世話になって杉の木を切っています。今年は杉の木は需要がありません。家を建てる人がいませんでなかなか丸太が売れませんでいわゆる雑木というか広葉樹を切っています。素晴らしい杉の木がありますが、利用する人がいないんです。その工法で建てる人がいないといいまじょうか。和建築というか。佐藤さんみたいにああいうふうな設計で作っていただければいいんですが、丸太でちゃんと造るという工法といいまじょうか。そういう大工さんもしなければそ

ういうふうにしようとする人もいないというのが現状でないか。別荘を建てる時とか地元の木を使って従来どおりの工法でやった人にはいくらか補助するのもひとつの案かなというふうに思っています。大工さんがそういう工法を知らないといずれ建てる人がいなくなるわけでしてそういうのもひとつの現実かなというふうに思います。

それから、バイオのことですが相当間伐材は使われておりません。採算が合いませんのでなかなか搬出してくることはできません。いずれ農業も自分達で燃料、肥料、飼料を作るといような時代がすぐ来ると思っています。耕作放棄地あるいは林業等で何とかして燃料等を自分達で製造するということまでいかないと農林業も発展しないのではないかなと思います。

センター長

間伐材はかなり利用価値が広がっていますか。

倉橋委員

今あまりにも植えすぎてしまっているというのが現実です。広葉樹の植生のいいところにも杉を植えているので。本当はちゃんとした昔ながらの所にちゃんとあって、それを利用するというのがいい。

議 長

天然杉が生えていないところは本当は無理なんですよ。

倉橋委員

そうです。無理なんです。

議 長

ただ少し風が吹いてきたのではないですか。

倉橋委員

外材はだんだん入って来なくなると思っています。そうなると売れると思いますが、値上りすぎてもまた困る。適正な価格というのが米でも木でもあると思います。それを守っていただかなければ駄目だと思います。

佐藤委員

今倉橋さんから杉の木を使って建物を建てないという話がありました。実は家でも木造にこだわってやっていますけれども、生保内から建具を作れる人がいなくなるんですね。家で大工さんが一人いますので何とかと思っていますけれども、ただ建具に関しては今度やはり角館とか西木の建具屋さんをお願いしようかなというものになるわけです。木造の建物を建てるという目的がないと難しいと思うんですね。山形の金山町みたいに町営住宅とか公共施設を全部木造で建てるというところがあります。今横手の小学校とか公共施設を木造で建てているところもあり

ますが、全部集成材なんです。集成材は多分地元の木は使わないんですよ。よそと同じことをやっていると残らないんですよ。よそで集成材でサッシで建物を建てている時に仙北市田沢湖は木造だけで建てるというそのことに価値があると思うんですよ。そのものに観光客が来るわけですけども。私すごいなあと思っているのは今由布院で亀の井別荘という有名な旅館がありますけれども、あそこは日本の古い建物でやっていますけれども建具屋さんから唐紙やる人から全部旅館でお願いしているわけです。旅館がそういう人を育てているんです。だから、由布院に唐紙屋さんも建具屋さんも残る。そういう部分が農業と観光という部分の一番重要な部分だと思うんです。全国一律にやって仙北市が生き残るなんて絶対ない。よそと違うことをがんばらないと地域は多分残れないと思う。同じことをやっていけば大きいところに全部吸収されちゃいますので。よそと違うことをやるのが話題になってそれに人が集まってくるんです。福島に今日本で一番元気のいい大内宿という萱屋根が20軒か並んで観光地になりましたけれども。つい10何年前は萱屋根もそんなにきれいになっていなかったけれども役場の係長をやっていた人が、駄目だということで役場を辞めて萱職人をやったんです。一つ一つみんなで屋根を残してなおかつ古い学校跡地に、教室の中で柱を組んで萱屋根の修理の研修所を作って、部落24軒の2代目を全部萱屋根の職人に仕立て上げてきているんです。今まで萱職人を馬鹿にしていたんですが、屋根を直すことで村に人が来て、地域で飯を食べるということになると2代目が帰ってきているわけです。やはり地域の何かひとつを育てていかないと地域が残るところまで多分いかないと思うんです。だから、その部分を誰が引っ張るか誰が皆で押すかという部分だと思うんですが。

さっき米の話もありましたけれども、やはり大型ホテル、旅館に対してJTBさんで何を言っているかといえは朝は必ず炊いたご飯を出して下さいということなんです。しかし、必ずしも炊いたご飯を全て食べてもらえるわけではない。前の日酒を飲んで二日酔いであれば朝食べない人もいますから、それを晩に使うわけにいきませんので捨てるしかないんです。それを考えた時に高い米を作って残るよりは安い米を買って捨てたほうが安いということなんです。これは我々にはちょっと考えられない考え方なんです。そういう大手のホテルもあるということなんです。我々はおいしいものと言うんですが、業界の形の中でそれをやるというものにはなかなかいかない。生産者と経営者でなく板前さんとか実際にそのホテル旅館で使う人達の顔合わせを行政でうまくやっていた

だいて、田沢湖にこういうおいしい米があるので使うというお互いの情報交換の場をもって欲しい。現場のほうでつながらないとなかなか上のほうだけで理想論を話していても進まない部分だと思うんです。ぜひ行政も後からぐっと押してもらえればもっと進んでいくのかなと思います。

議 長

給食の野菜等は地元のものを何パーセント位使っているものですか。

総合窓口課長

米飯給食が週何回とか、月何回とかメニューに載っていますが、具体的にそれが伸びてきているのかちょっとわかりません。神代地区のグループでは農協さんが中心になって学校給食のほうと連絡を取っている。角館も下延地区の生産者グループがあって学校給食に使ってもらっている。西木ではJ A女性部。全体のメニューからいけば2割か3割位でないか。ただ伸びては来ています。神代のほうではもう既に来年度のメニューを農家にこの時期はこの野菜が必要ですよというような打ち合わせもそろそろもたれる時期だと思います。できるだけ必要な時期に必要な野菜をとというような形で取り組まれてはいるようです。

議 長

給食はスーパーに売っているようなまっすぐなものでもちよつと曲がったものでも大丈夫だと思います。そういうものをうまく結びつけばいいのではないかと思います。

総合窓口課長

ジャガイモが機械でむく関係でしょうか。ある程度大きさがそろっていないと皮むきできないという話も聞いております。西木は手作りの福神漬が大変おいしいと聞いております。

センター長

スキー場ではぜひこれをというこだわりでなく、結局入札で負ければそれで終わりということですか。

倉橋委員

そのとおりです。スキー場に関してはスポーツセンターも指定管理者になっていまして二つに分けて入札しているようです。

センター長

ああいうところでこだわって使ってもらえればいいんですが。

倉橋委員

あそこは回転ですので、あまりこだわったものを作れない。正規にちゃんとした米で炊くとすれば40分かかるんです。じっくり炊いて出す

というところにはいいんですが、炊いてすぐというのはふさわしくない。10釜位ありますがそれが全てフル回転したりするとまにあわないんです。おいしくならないんです。特に正月の3日間位は大変です。業務用としてはいい米はなかなか難しい。ある程度悪い米がわりと早く炊き上がる。

総合窓口課長

重点プロジェクトで宿泊施設とか飲食店とかアンケート調査した時に雨降った時にお客さんの足を止める部分がないという意見がかなりありました。史料館のようなものがあればという意見もありました。

佐藤和志委員

全てお金を出さなければ入れない場所になってしまうとお客さんは、他に行ってしまうわけです。雨が降っても簡単に入れて雨宿りしてそれなりに何か見るものがあるという充実感があれば次につながると思います。湖畔で宿泊なんかも3割位落としている中で唯一お客さんを落としていない所があります。なぜお客さんが増えているかといえば鶏を飾っています。秋田三鶏と秋田犬を置いています、あれにお客さんがかなり集まるんです。それでお昼の休憩が増えるということなんです。皆落としているけれどもがんばれば来てもらえるということだと思います。自分で汗をかかないと駄目になる。今観光客もホテル旅館もそうなんです。板前さんが作った料理、以外と食べ飽きているんです。地域の人が手間暇かけて作ったものが見栄えとか以前に惹かれる部分あると思うんです。

だから、さっき倉橋さんが言われたようにおいしい米を作ってもおいしく使えない。これはやはり生産者とご飯を炊く人が情報交換しないと出てこないわけです。これは社長とJAの組合長と話しても下にはつながらない。例えば最低40分は水につけてから炊いてもらいたいという情報をお互いに共有しないと良くはなっていないんです。その部分の話し合いをなんとか取り持って欲しい。業者のほうからいけば使ってやるよみたいな思いあるでしょうし、使うほうは規格がそろっていないければやってられないという話になる。さっきのジャガイモもそうなんです。規格がそろわなくても使うという気持ちが出てくるのは、お互いの情報交換しかないんです。そこをやってもらえれば、ちょっと高くても規格外でも地域のものを使うということが今観光につながっているわけですから、そこをやらないと多分いつもこういう机の上でいい話をしてもなかなかつながらない部分かなと思います。

総合窓口課長

今のお話は佐藤さん前回の会議でもお話されていますよね。皆さん食べたことがあると思いますが、寒締めほうれん草は、普通のほうれん草よりも甘みがぜんぜん違ってびっくりします。だからああいううまいものがあるということを作る人と使う人がうまく連携取ればということですね。

佐藤委員

そうですね。その情報なんです。雪の下のキャベツ等も全然違うはずなんです。

センター長

板前さんたちはそういうことを試験的にやったりしないものですか。

佐藤委員

板前さんはやりません。我々思っているほど板前さんは考えていないと思います。1日50人も100人分も作っていますのでやってられない。

眞崎委員

料理人の究極は自分で畑をやって作るということだと思います。

倉橋委員

先程の湖畔の板前さんは自分で畑から直接持っていく。曲がっていても良い。結構いい物を作る。

佐藤委員

そうなるとこれは畑から直接使っていますよと。そのことが地産地消に広がっていく。どんとひとつ抜け出ることができればいいと思う。今のオーガニックレストラン等はそれでサラダですごい高い料金をもらっているわけですね。そこまで使うほうが情報を発信してやるかどうかですよね。家で山の芋扱っていますが、当初農協に話したときはそれだけの量を用意できないと言われた。規格がそろわないので。今はある人をお願いして作ったものを形はどうであれ全部買うよということでそのかわり値段は一定ということでやっているんですけども。やはり皮をむいておろすというのは大変な仕事なんです。おろす機械は自分で作ったんですが皮をむくリスクをしょってもお客さんに喜んでもらうというものがあればやる価値があるんです。手間暇、単価を考えれば今簡単に山の芋鍋四六時中出すというところにはいかないんですよ。山の芋は単価が高くキロ1200～1300円するのでそれを皮をむくと歩留まり6割位です。そうすると1300円の芋を買って使えるところ500～600円しかないということです。それで何人に出せるかという。山の芋鍋というのはすごく単価の高い料理なんです。実をいうと、それを使うほう

と生産するほうとうまく話をすればいくんだけれどもそれをかんかんがくがくやれば私はいい方向にいくと思います。

議 長

暫時休憩します。（午後 3 時）

議 長

休憩前に引き続き会議を再開します。（午後 3 時 8 分）

議 長

次に田沢中学校について、先ほど千葉さんから具体的ないい意見が出たのでそれに関して意見等ないですか。仙北市では例えば風力発電とか、太陽光発電とかエネルギーに対しての取組とか特別何もないものですか。

企画政策課長

バイオのエネルギーに関する取組としては計画書も策定されていてその中の重要項目として木質バイオを活用したエネルギーの自給率を上げていくという計画があります。ひとつはクリオンのところに木質バイオエネルギーで電気と暖房をクリオンや老人保健施設等の公共施設に活用していこうという目標があり、今検討されております。こういうエネルギーを生み出していく事業を行うには大変投資が大きくて確か 1 次的な投資が 6 億位かかるんです。国からの補助金は 2 分の 1 しかないので 3 億を市で準備しなければいけない。その財源をなんとかしていくのかということと維持管理のコストがどれくらいかかるのかというあたりが事例があまりなくて見えない部分があるということです。今担当部署ではそうしたものをつめているようです。

議 長

木質のエネルギーというのは具体的にはどういったものですか。

企画政策課長

具体的には先ほど倉橋さんがおっしゃったように未利用の間伐材をチップ化してそのチップを活用してガス化して電気と熱量を出していくということのようです。それから先ほどちょっとお話ありましたがけれども菜の花を植えて菜種油を採るということについて「秋田の菜の花ネットワーク」というところが一生懸命がんばっています。作付けの技術や、搾油等に関して技術的なことは一生懸命支援しますということで、上桧木内地区にお話があったんです。休耕田を活用して内陸線の沿線に菜の花を植えることで景観も良くなって内陸線に乗る人にとってもいいのではないかということでしたけれども農家の人達はなかなかそれをやるということに関してはいいとは言わなかったです。高齢化していてやるの

が大変だというふうなお話でなかなか乗って来ませんでした。

倉橋委員

農家は無理です。

議 長

菜種油を採らなくてもあれを漉き込めばいい肥料になるんですが、もったいないですね。田沢の奥なんか休耕田が多いですよ。

佐藤委員

休耕田に菜の花を植えて得られる補助金等と米価を比格しているんですよ。菜の花を植えることによって環境が変わって観光客が来て米の消費が増えるというところまで、地域の人がそこまで考えられるかどうかという部分なんです。今、菜の花を植えても間に合わないというものだけでいっちゃうと駄目なんです。

企画政策課長

さっき散歩道の話ありました。上桧木内の方々と菜の花を植える話が出た時に必ずしも油を絞らなくても休耕田に花を植えることによって上桧木内集落内を散策させる。そして上風船館というところがあるんですが、そこには元気な母さんたちが毎日何人かいますので、集落内を散策した後そこに寄ってお母さんたちとおしゃべりするとかそういう風な形で紙風船上げ以外の時にも人に来てもらうようなことをというような話はしているんですが、やはりそれを誰がやるというふうな話になるとなかなか進めないんですよ。

議 長

ただ、遊歩道はところどころにトイレがないと駄目です。規定等はないんですが、お客さんをお呼ぶとなるとそれぐらいしっかりしていないと。水沢地区では1年に1回位全員出て役場に了解を得て財産区有地をはらって少しずつ歩けるようにしています。

石井委員

高野地区に一時コスモスが少し植えられた時があったんだけど。

センター長

散策路というと鶴の湯へ通じる道は、ウッドチップを敷いてすごく整備されてなかなかいい場所です。

今委員

そういう景観に関してだと地元の人達も出てくると思います。そうするともうちょっと違った雰囲気が出ていいかなと思います。

石井委員

観光客を呼びたいと言っても言っている割には動きがない。

今委員

やはり地元の人達が変わっていった意識を高めていかないと全体に広がっていかないと思います。

佐藤委員

小先達のお花畑いつもすごいなあと思っていますが、多分個人だからあそこまでやれるんですね。あれが造道の人皆でやろうというふうにもっと規模が大きくなればすごいなあと思うんですが、前の所を観光協会ですべてやっていますが、菜の花を植えるだけでも大変なんですね。

今委員

やはり地元の人達にボランティア的意識が盛り上がってくればいいかなということでしょうかね。個人個人がきれいにしていこうという気持ちが高まってくればいいんですけども。

千葉委員

山居のコスモス通りも何年かはすごいなあと思ったけれども雑草に巻かれてしまっています。それでも何年かは癒された。皆が出てやっている姿も見えて感動したけれどもマラソンまで咲かせるとなれば雑草に巻かれてしまうという感じで廃れてしまった。

センター長

かたやきれいにする人がいれば、林道等はごみが廃棄されてすごい問題になっている。

高橋吉幸委員

認定農業者数は今399人いて10年後の目標は400人ということであればもう市として目標を達成してしまっているという感覚なのか。直売所の場合は今13箇所あり10年後には20箇所にするということ目標をたてているけれども、これを目標として市としてあくまでも近づけていきますということなのかを聞きたい。認定農業者はもう100パーセント目標を達成してしまっているが。そのあたりも含めて市としての取組はどうなのか。あえてがんばって市として後押ししていくという数値ではないのか。現実に10年後というのは逆に数値が下がると私達は思います。直売所の設置場所数も現実には茶立ての清水等は冬は休みだし、実態からいくと1年に何日間かの開店だけなんです。その点も含めて市としての目標なりどういう形でバックアップしていただけるか。あくまでも地元の女性群におまかせして、時代の流れをそのまま踏襲していくという形になっていくのか。

センター長

支援というのは経済的な部分という意味ですか。

高橋吉幸委員

組織化させていく方向か。取り組む母さんたちががんばっている所は茶立ての清水みたいにやっている所もあるし、JAの婦人部の人達が集まって年に何回かやるというスタイルの所もあるし、それで地産地消が進んでいるという評価になるのか。

企画政策課長

私達行政は担い手にはならないわけです。私達が直売所をがんばってやっていくということにはならないので、仮に今おっしゃったようにまず最初地域の人達で年何回かやってみたけれども次にはこういうものを作付けしてみたいとか。例えば次にホテルにも出してみようかというふうになった時にいろんな相談に乗ったり、さっき言ったように連携させて情報交換させるとかそういうふうなお手伝いができていくと思います。やはり取り組もうとする人達の意識がなければなかなか行政として支援するといっても難しいところがある。

高橋吉幸委員

先に引っ張っていくという方向ではないんですね。

企画政策課長

場合によっては引っ張ることもあるけれどもなかなかずっとというわけにはいかないのではないかと。要所要所では引っ張る。

高橋吉幸委員

農業と観光という何十年來の懸案なわけです。地元で使ってもらふということ自体もいろいろ課題があつて難しいけれども、市としてどこまで何をやるかということになるとなかなか難しいことだと思います。

企画政策課長

農業と観光の連携というのは大事で、そうでなければなかなかこの地域全体が活性化していかないというところでは皆さん考え方が一緒のようです。さっき眞崎委員さんから出たように、皆が大切なことと思っていながらも未だ達成できていない。その理由は何かというところを探っていけばおのずと具体的に何をやらなければいけないか見えてくると思う。さっき佐藤委員さんが言ったように生産者とそれを使うホテルの人達がもっと情報交換していったほうがいいんでないとかそういうものがいろいろ出ていくのかなという感じがして聞いていました。そういう情報交換する機会を作るとことは行政としてできることだと思います。

高橋正男委員

現在非常に観光客が減っているという説明がありましたけれども、今

言ったような田沢湖地域として遊歩道を設置したらどうだろうかあるいは史料館を作ったらどうかということもひとつの項目の中に入れて提案したらと思うわけであります。その辺のあたりでお話ししたいんですが、実は生保内地区武蔵野に市民会館という施設がありますが、市の財産として有効活用を図っていくことが極めて大事なものでないかと思うわけであります。それと併せてハード面で非常に厳しいものがありますが総合体育館的なものを併設しながら全国大会が誘致できるような施設を作りながら観光客の誘致を図っていくということも必要でないかと思っていますので、そういう面も含めた提言ができればと思います。

センター長

今日はテーマを絞っていただきたい。今高橋さんのおっしゃったような肉付けは来年以降どんどん出してまとめていくという手順になろうかと思っています。

佐藤委員

先ほどこらいろいろお話しているとやはり田沢湖というのは農業と観光という切り口が一番皆さん関心ありますし多分これがなければ地域の活性化というのはいないと思います。

地域医療という話も出ましたが、我々の段階で問題意識はあるけれども解決するところまではいかないと思うので、この部分は審議会から提言ということでいいと思います。

いかに田沢湖に来てもらうかということをやらないと。このエリアは田沢湖なくして観光客はありえないと思います。やはり何かひとつきっかけになる施設なり環境づくりをしないと難しいのかなと。

やはり農業と観光、それから田沢湖の観光というあたりで二つ位に絞って、医療問題は提言という形でいったらどうか。

議 長

生保内盆踊りについてはこちらから意見という形で実行委員会に出したいと思います。

佐藤委員

多分別の部分でいろいろ意見交換をしてやれる部分でないかなと思います。

議 長

駅前周辺が盛り上がる感じでいければ。

石井委員

自然に皆さんが家から出てくれば逆に観光客も増えるんでないかなと見に行こうかなと。まず自分たちが楽しむこと。その後にそれがついて

くればいいのかなど。

井上委員

冬に「なろか」という行事今もやっていますか。

センター長

はいやっております。今年は2月9日（旧暦1月15日）です。

井上委員

盆踊りだけにこだわらずに火振りかまぐらしのものもあるでしょうし、田沢湖祭り、高原の雪祭り等とからめまして、いろいろこの地域では観光客を呼び寄せるものがあると思いますので。

石井委員

高原の雪祭りも盛り上がりには欠けてきた。

井上委員

田沢湖祭りも龍を担ぐ人がいなくて岩手から借りているとか。そういうことも若い人が少なくなっていることの原因だと思いますし、やはり後期高齢者が多くなってしまっていてそれどころでないというような。盛り上がらないということは寂しいことですよね。

佐藤委員

今、龍の話が出ましたけれども、田沢湖祭りで龍の担ぎ手がいなくてということで去年の夏かろうじてやったんですけれども実は10月10日に全国龍サミットという大会がありまして去年で5回目だったんですが、田沢湖から3回行っています。最初の2回は龍1匹しか持っていけなかったんですが、去年2匹持っていきまして市の職員10人位にお手伝いいただいて90人位は在京秋田県人会等をお願いして100人動員して埼玉アリーナでやった。次の日は大崎という品川の隣の駅の夢さん橋という町おこしにも参加してますけれども、段々萎んでいるのではなく、それなりに頑張っているということだけは覚えていただければと思います。若者というのが私基準が変わってきていると思います。団塊の世代の方が若者のときは押すな押すなで人が集まったと思います。この間東京でやった時も3分の1ぐらいは60歳以上の方たちに手伝ってもらいました。結果的に楽しかった。来年も参加したいといわれている。私は枠にはめなくても皆で楽しむということの情報提供できればやり方はいろいろあるかなと思います。だから少子高齢化でただそれだけではまっていくとマイナスイメージしかないんですけれども逆に江戸時代は今より人数が少なかったということを考えれば今の時代はすごいということになると思います。だからそのギャップを気持ちの上で埋めないと少なくなっているから全て駄目になるというものではないと思うんで

す。ですから気持ちだけでも負けないでがんばらないと。だから私は地域でどんな人でも情報交換するということが多分一番の基本なのかなと。上だけでも駄目ですし、下だけでも駄目ですし、ぐしゃぐしゃに情報交換しないといいものは出てこないのではないかという思いがします。

高橋正男委員

絞込みなんです、さっき佐藤委員が言われたように観光と農業の関係、田沢湖のこれからの目指すべき方向という形の絞込みでいいんじゃないか。

議長

観光の付帯に散策路なんかも考えるということで。救急医療関係は提言として。大体そういうところで農業と観光を組み合わせでこれから掘り下げていきたいと思います。次回に必要な資料とか説明してもらいたいことがありましたらお願いします。

高橋正男委員

今まで市で取り組んできた施策の概要、経過、成果等を出してお知らせ願いたい。

企画政策課長

重点プロジェクト推進室で観光と他産業の連携について取り組んでいるのでそこからお話してもらえればいいと思います。市の中で田沢湖がどういう位置づけであるのかについては観光課よりお願いしたいと思います

高橋正男委員

そういう現状と今の課題をわかる範囲で市のほうから説明お願いしたい。

議長

次に次回の日程について希望等ありましたら。

(事務局一任の声あり。)

高橋正男委員

今回の会議録を早めに委員に配布していただきたい。

議長

今日は長い間ありがとうございました。

(午後 3 時 4 5 分)